

平成27年9月17日
記者発表

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験） の実施について

- 国土交通省道路局では、道路に関する先進的または斬新な施策について、当該施策を本格実施するにあたり、現地で市民等の参加のもと、効果や影響を確認するため、場所と期間を限定して試行・評価する現地実証実験を公募により平成11年度から実施しております。
- 平成27年度においても実験を実施する地域を公募[※]し、全国で6地域が採択されました。
- 東北地方整備局管内では、融雪施設に変わる融雪マットによる融雪効果等を検証するため、「市民参加による冬期の歩行空間確保に関する社会実験」を、青森県青森市長島一丁目地内において実施してまいりますので、お知らせします。
- 社会実験については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>

※公募期間

平成27年5月25日（月）～平成27年6月19日（金）

〈発表記者会：青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会〉

＜問い合わせ先＞

国土交通省 東北地方整備局 TEL022-225-2171(代表)

道路部 道路計画第二課 課長 森日吉 (内線4251)

建設専門官 木村恭一 (内線4256)

○実験の概要

冬期歩行空間の確保において、市が実施する融雪マットによる融雪の取り組みについて、市民団体によるマットの管理・運営等の実施試験を行い、装置の融雪効果の確認とともに、管理・運営において市民自らが「歩行における安全の確保」「経済性を含めた実施の課題」「活動の持続性」について検証を実施。

○実験を実施する背景

- ・歩道融雪施設の老朽化に伴い、毎年の故障等維持管理費に苦慮一方で施設整備の市民ニーズは高い。
- ・高齢化社会において市民協力による歩行空間の除雪ができない中、歩道融雪の経済的・効率的な整備と運営が求められている。

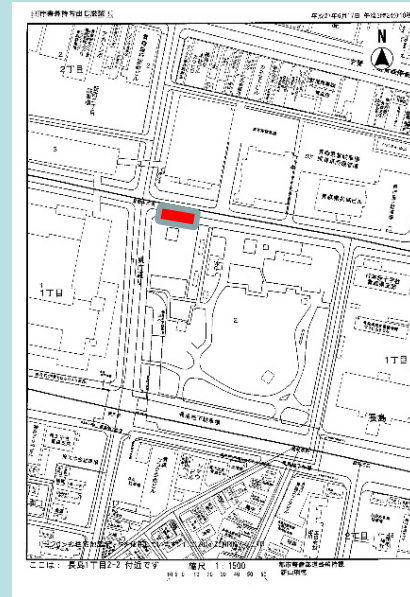
○事象を解消するための対応策

- ・融雪マットは、道路を掘削することなく、故障等にも速やかな対応が可能。
- ・従前施設は埋設により施設整備したが、マット活用により施工費用を軽減。

○実験の内容

- ・冬期歩行空間において歩道上に融雪マットを敷いて歩道融雪を実施
- ・市民団体による管理・運営について、効果や課題について検証を実施

実験のイメージ



融雪施設正常時



融雪マット使用時

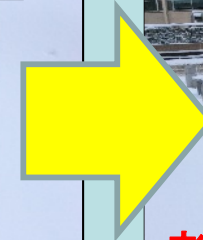


融雪施設故障時

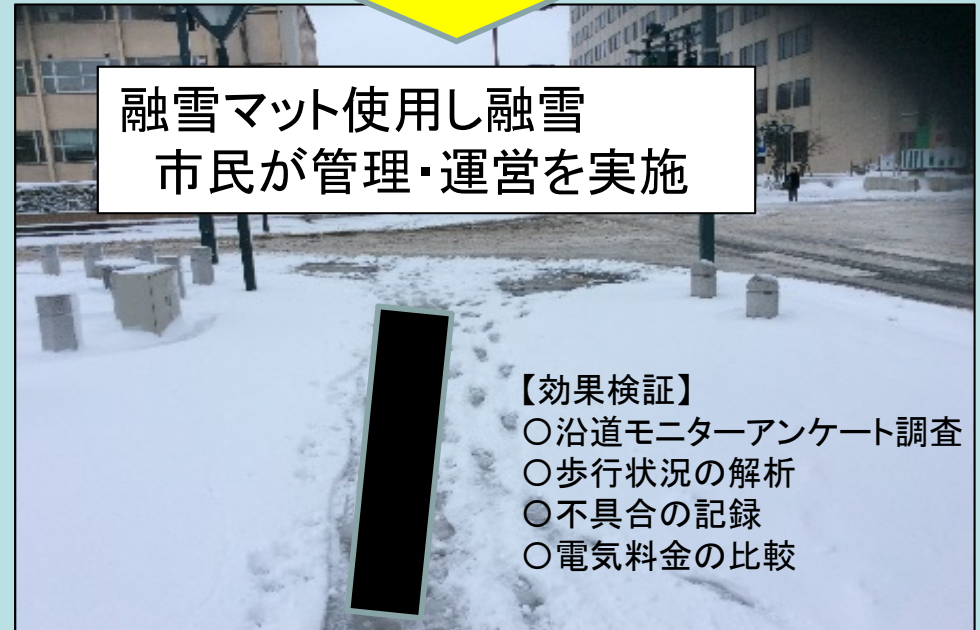
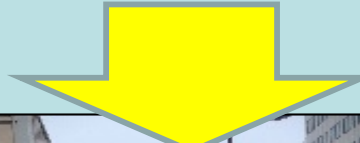
実験のイメージ

- ・歩道融雪施設の老朽化に伴い、毎年の故障等維持管理費に苦慮一方で施設整備の市民ニーズは高い。
- ・高齢化社会において市民協力による歩行空間の除雪ができない中、歩道融雪の経済的・効率的な整備と運営が求められている。

冬期歩行空間確保に向け融雪装置整備のニーズは高い



実験イメージ



【効果検証】

- 沿道モニターアンケート調査
- 歩行状況の解析
- 不具合の記録
- 電気料金の比較

○冬期歩行空間において歩道上に施工性・維持管理に優れた融雪マットを敷いて歩道融雪を実施

○市民団体による管理・運営を実施

○効果や課題について検証を実施